

第20回熱帯医学研究コース 修了証書授与式挙行

熱帯医学研究所では、12月12日(金)に第20回熱帯医学研究コースの修了式を実施しました。

同コースは、昭和58年度から文部科学省および国際協力機構の協力を得て開設されているもので、開発途上国の研究者に対して、12ヶ月間にわたり、ウイルス学や寄生虫学等を研究する機会を提供し、熱帯地にはびこる熱帯病及び各種感染症の予防、撲滅に貢献することを目的としています。修了式では、



祝辞を述べる齋藤学長

青木所長から中国、フィリピン、ウガンダなど8カ国9名の研修員一人ひとりに修了証書を手渡し「帰国後も熱帯医学研究所で学んだことを生かしてほしい。また帰国された後も熱帯医学研究所の教官と連絡を保ち、熱帯病制圧に努力してほしい。」と挨拶がありました。齋藤学長の祝辞、国際協力機構の守屋業務課長の祝辞の後、研修員全員が、それぞれ日本での思い出や関係者への感謝の言葉を述べました。

本研究所ではこれまでに、アジア、アフリカ、中南米、東欧地域の37カ国151名の研修員を受け入れています。



記念撮影

(熱帯医学研究所)

第4回機器分析センター 講演会開催

機器分析センターでは、12月12日(金)に薬学部柏葉会館において、福山大学薬学部の日比野 例教授と、千葉大学機器分析センターの山口健太郎専任助教授を講師に迎え、全学から教官及び学生(40数名)の参加を得て、講演会を開催しました。

日比野教授からは、有機合成化学反応の中のペリ(周辺)環状反応の一つである6 π -電子系環状反応を巧みに活用した、特に、インドール誘導体を中心とする多環性複素環化合物の合成の研究について、山口助教授からは、酵素-基質、抗原-抗体、薬物-ターゲット分子間での分子認識や調節・制御など、多くの生物学的過程を解明する上で非常に重要でありながら、これまで直接観測することが困難であった分子間の非常に弱い相互作用に基づく自己組織化の解析を、独自に開発されたコールドスプ

レー質量分析法で確立された研究について、それぞれ講演が行われました。

現在、世界が注目している研究について、じかに聴けた感動が残り、講演終了後も活発な意見交換が行われ、大変有意義な講演会となりました。



左から本学機器分析センター富永助教授
・福山大学日比野教授・千葉大学山口助教授
・本学工学部岩尾教授・共同研究者小笠原氏

(大学院医歯薬学総合研究科学術協力課)